

第 24 回国際がん登録学会 (IACR) 報告と
第 25 回会議のご案内井上 真奈美
愛知県がんセンター研究所疫学・予防部

第 24 回国際がん登録学会 (IACR) が、フィンランドのタンペレにおいて 2002 年 6 月 25-27 日に開催されました。タンペレはヘルシンキから 150 キロほど北に入ったフィンランド第 2 の都市で、工業都市と聞きましたが、緑が多く住みやすい印象を持ちました。海外の学生にも広く門戸を開いて教育を行っている Tampere School of Public Health もここに 있습니다。ちなみに、携帯電話で有名なノキア Nokia は地名で、タンペレの郊外にあります。

今回は ENCR (European Network of Cancer Registries) の会議もあわせて開催されたため、欧州の多数の国々から参加がありました。この会議に出席していつも認識させられるのは欧州国同士のネットワークの固さで、豪州も含め、彼らがん登録従事者の活動が国家を動かすという自信が、がん登録の遅れている国のレベルを引き上げ、国境にこだわっていても解決できない様々な問題解決が進行していくのだということを、今回は例年以上に感じました。しかし同時に、欧州の多くの国は我が国の都道府県並みの人口規模であり、その分運営もしやすいのだろうと、正直うらやましくも思っていました。開催地に足を運ぶまで、我が国からはどの位の参加者があるか前情報がありませんでしたが、ふたを開けて見ますと、17 名 (18 名?) という開催国フィンランドや英国に次ぐ多くの参加がありました。例年通り、テーマは、がん登録の精度管理からスクリーニング評価、がん登録を用いた記述疫学研究や分子疫学を含む分析疫学研究、そして

地域がん登録が国家プロジェクトとして定着しており、がん研究における診断や治療の進歩が、あまねく国民に行き渡っているか、また行き渡っていない場合、どこに問題があるのか、それらの課題・問題解決にがん登録従事者と保健衛生・行政関係者とが、がっちり手を組んで着実に仕事を進めていることでした。2 つ目は、わが国のがん登録従事者、研究者の層の薄さです。がん登録先進国での経験と研究成果を大いに吸収して、わが国のがん登録を発展させ得る若い人材の育成が緊急の課題です。疫学・生物統計等に関心のある若手研究者をがん登録先進国に派遣して、海外から多くのことを学んできて頂きたいものです。来年の NAACCR 学術集会はハワイ・ホノルル (6 月 8 - 14 日) で開催されます。若手の皆様、是非これにご参加下さい。

生存率解析など様々な内容でした。その中で印象に残ったのは、1986 年に起こったチェルノブイリ事故後の健康影響に関する評価で、不注意なマスメディアなどからの偽報を科学的証拠で払拭するのにいかに信頼できる研究や質の高い疾病登録などのインフラが必要かを訴える内容でした。地域がん登録の必要性を国レベルで認識するには、我が国の政府にまだまだ危機感がかけていると感じ、本当は政府の方にこれを聞いてほしいと思いました。

参加者の多かった我が国からは多数のポスターが掲示されましたが、研究班で近年強化されてきた影響か、生存予後に関する解析が目立ちました。全体にポスターのレベルが高くなり、我が国より経済的には裕福だと思えない国からの参加者もほとんど大きな一枚紙を用いて作成しており、小さな紙を「パッチワーク」しているのは日本と他の数カ国の参加者だけでした。それでも、我が国のポスターの質の高さが認められ(?)、大阪大学から 2 名もポスター入賞者がでて大変嬉しい結果となりました。もう来年からは「パッチワーク」では済まされない情勢になるのではないかと、我が国の貧しい研究者の一人としては危惧しているところです。

今回の会議は、フィンランド地域がん登録 (National) の 50 周年と重なり、クラシックの演奏と歌をバックに、アットホームな記念式典に立ち会うことができ、これもよい思い出となりました。ちなみに立ち上げから現在 3 代目の Dr. Hakulinen まで歴代 Director は全員ご健在でした。

さて、次回の第 25 回国際がん登録学会は 2003 年 6 月 16-20 日にハワイのホノルル (Runaissance Ilikai Waikiki Hotel) で開催されます。これは米国の NAACCR (North American Association of Central Cancer Registry) の会議と同時期に開催されるということで大きな大会となりそうです。我が国には珍しくお隣の国での開催ですので、多くの参加者を期待いたします。E Komo Mai!

